

臨床実習終了後 OSCE 信州 SP 研究会との反省会

日 時：平成 27 年 7 月 13 日（月）

16：00-17：00

場 所：基礎棟 5 階第一会議室

出席者：信州 SP 研究会員 20 名

医学教育センター教員 4 名



良かった点

- ・ SP と学生アルバイトの連携がスムーズにできて良かった。
- ・ SP も診察室の移動があり、気持ちの切り替えもできて良かった。

疑問・質問（→以降は医学教育センターの回答）

- ・ 評価者の先生に、シナリオと違う回答をするよう指示された場合があったが、どのようにすれば良いのか。→臨床実習終了後 OSCE に向けて練習した通りの回答をお願いしたい。評価者には当センターから注意するので、是非、医学教育センター教員にお申し出いただきたい。
- ・ 終了時間より早く試験が終わった学生に雑談された。評価者も容認したため、雑談に応じたが、果たして良かったのか。→今後、附属病院が試験会場となった場合は、SP の皆さんは試験終了後に診察室から退出していただくことになるので、そのような事態は避けられると思う。
- ・ 全診察室をビデオ撮影していた理由は何か。→附属病院が試験会場になった場合に、SP さんは待機している部屋で試験進行をモニターで見守る。その時に備え、今回は録画を行った。また、臨床実習終了後 OSCE が準国家試験になった場合は、試験の公平性を担保するために録画を行うため、それにも備えた。
- ・ 予定時間より早く診察が終わった場合は、患者席にいるのか、控えの椅子に戻るのかどちらが良いのか。→控えの椅子に戻ってほしい。附属病院が試験会場になった場合は、試験終了後には診察室を退出していただくので、この問題は解消されると思う。
- ・ 痛みを 10 段階で訊ねられた場合に、「今までの経験した痛みを 10 とすると…」と問う学生と「痛みを 10 段階で表現すると…」と問う学生がいた。10 段階のスケールが違ってしまおうと思う。→その場合は、SP さんから学生に「今までの経験での 10 段階ですか？」など、スケールが同じになるように聞き直してもらいたい。

要望

- ・ SP は、学生がどのような課題を与えられているのか知らないため、学生の質問に戸惑うことがある。例えば、まず最初に「胸が痛いのですか？」など訊かれたため、対応に戸惑った。当日の説明会時でも良いので、事前に SP も学生に提示される内容を承知しておきたい。→了承した。次回からそのように改善する。
- ・ 模範的で優秀な SP の演技を参考にしたい。先生が薦める映像などがあれば見てみたい。また、以前、信州 SP 会員だった方が、本部(東京)の SP を訪問したようだ。その方の話も参考にできれば良いと思う。→こちらとしても参考にできるものがあればお薦めしたい。他大学に外部評価者として赴くことがあるが、信州 SP 会員さんも大変優秀だと感じる。今後も自信を持って演じていただきたい。

今後の予定(医学教育センターより)

- ・ 試験会場が附属病院となる予定である。その場合は、待合室のように SP 会員が全員一か所に控え、呼ばれたら診察室に入室することになる。受験者も SP も診察の臨場感が増すと思う。
- ・ 今年はお薬手帳を用いたが、問診票などを使用することも考えている。また、紙カルテを書かせることも視野に入れている。全国的な動向に合わせ、本学の試験方法も考えていくことになるので、今後とも是非皆さんのご協力をお願いしたい。

以上